

自見 英治郎 先生



九州大学歯学研究院
OBT研究センター / 口腔細胞工学分野
教授

■ 日時： 令和4年 7 月 4 日 月 17:00~18:30

■ 場所： 徳島大学歯学部3F 講堂

タイトル

エストロゲン欠乏による骨量減少と体重増加に おけるNF- κ B inducing kinase (NIK) の役割

超高齢社会において、健康寿命の延伸は重要な課題である。閉経後の女性は、骨密度の低下による骨折リスクや体重の増加による糖尿病や心血管障害のほか、乳がんなど女性特有のがんの発症リスクが上がることで報告されている。エストロゲン欠乏による骨密度の低下と体重増加は各臓器で共通の反応を惹起することが考えられるが、従来これらの疾患は、臓器別に研究や治療が行われてきた。申請者は、NF- κ B inducing kinase (NIK) の遺伝的機能欠失型変異によって非古典的経路が抑制されたalymphoplasia (aly/aly) マウスは骨吸収の抑制による軽度の大理石骨病を呈することから、NIKの阻害剤が新たな骨粗鬆症の治療薬になる可能性を考えた。そこで新規NIKの阻害剤Cpd33を入手し、卵巣摘出マウスに投与すると、骨量の減少だけでなく、内臓脂肪の増加による体重増加も抑制されることを見出した。これまでの骨代謝調節におけるNIKの役割から、エストロゲン欠乏による骨量減少と体重増加におけるNIKの役割について紹介する。